中町赤十字病院

土光 莊六



はじめに

当院は兵庫県の中央部にある5市 1町からなる北播磨医療圏の最北部 に位置しています。といってもお分 かりにくいでしょうが、高校駅伝で 有名な西脇工業高校がある西脇市の 北側にあります。戦時中に、日本赤 十字社の兵庫県支部が多可郡中町に 疎開した縁もあり中町(平成17年町 村合併により、現在は多可町)に、 県東部にある柏原赤十字病院の分院 として戦後まもなく創立されていま す。当町は加古川の上流にあり、酒 米として有名な山田錦の発祥の地 で、人口は約2.4万人です。

当院は、神戸大学と岡山大学などからの医師の方々が働いています。 当院の前院長(8代目)である志賀 周郎先生(岡山大学昭和35年卒)は、小生と同じ第2外科教室の先輩でが、昭和49年から約32年間院長として在職し、昭和63年には、国内で最初の老人保健施設を病院併設で開設され、全国老健協会の副会長としての職を果たされました。また、病院の新築移転や増築にも努力され、現在の病院の基礎を作られました。 小生は平成18年4月にさぬき市民 病院から当院に参りましたが,医師 研修制度の改革後の平成19年度に, 外科(岡山大学第2外科)2名と整 形外科(神戸大学)3名の医師が派 遺を中止され,常勤医は内科2名(神 戸大学),外科2名(岡山大学),産 婦人科2名(岡山大学)と半減し, その結果病棟数は2病棟から1病棟 に縮小し,救急医療や当直体制もま まならず,経営状態の悪化をきたし てしまいました.

元来, 当院と行政の関係は良好で, 自治体病院ではありませんが, 施設 の新築や増築時には町から多大の支 援をいただいておりました. 医師派 遣の中止が分かった平成18年秋に町 には、地域医療対策室を設置してい ただき、平成19年3月には、地域医 療フォーラムを400人以上の町民の 方々のご参加をいただき開催し、当 院に対する新たなる支援を取り付け ていただきました. その結果, 平成 20年度には常勤医師2名を採用で き、平成21年度から回復期リハビリ テーション病棟(30床)を開床する ことができ, 多少ですが入院患者数 や1日単価の増加を得ることができ

ました.

さて, 兵庫県の北播磨医療圏には 5つの市民病院,国立病院と当院の 7つの公的病院があり、そのうち2 つの市民病院(小野市と三木市)が 合併することが決まっています。 当 院は当医療圏の最北部にあり、規模 の一番小さい病院です。 7 病院に一 番多くの医師を派遣しているのは, 神戸大学で当医療圏に一つの中核病 院を作ることを理想としています が、5市1町の行政の枠組みがしが らみとなり、その構想は中に浮いた ままで続きそうです. 今後の当院の 病院経営は、苦しい時代が続きそう ですが、病院存続のためにも地域の 医療, 保健, 福祉や介護施設との連 携を更に深めて行きたいと思ってい ます.

病院の理念

赤十字の諸原則にのっとり,人 道・博愛の実践に努めます。

病院の沿革

昭和20年11月 多可郡中町中村町204

番地の地に,柏原赤 十字病院中町分院と して内科・外科・産 婦人科・小児科の4 科,病床数20床にて 発足.

昭和23年12月 中町赤十字病院として独立.

昭和61年4月 整形外科, 理学診療 科を設置.

昭和61年9月 許可病床132床となる。 昭和62年4月 老人保健施設モデル 事業の指定を受け る。(入所定員22人)

昭和63年4月 老人保健施設モデル 事業を終了し,本格 的施行に移行する. 昭和63年7月 老人保健施設に22床 を転用し、許可病床

110床となる.

平成5年4月 新築移転により老人 保健施設が竣工.入

所定員82人となる。

平成6年12月 在宅介護支援センタ ーを開設.

平成10年4月 眼科を設置。

平成11年4月 中町赤十字訪問看護

ステーション開設.

平成11年9月 中町赤十字指定居宅 介護支援事業所開設.

平成13年2月 人工透析を開始。

平成18年9月 病院機能評価認定を

受ける。(Ver.5.0) 平成21年6月 回復期リハビリテー

ション病棟を設置. 稼働病床数を80床と する.

概要

所 在 地:兵庫県多可郡多可町中区

岸上280番地

診療科目: 内科, 外科, 婦人科, 小

児科,整形外科,眼科, 放射線科,リハビリテー

ション科

病床数:一般 110床

稼動病床:80床(一般 50床 回復

期リハビリテーション病 棟 30床)

附帯事業:中町赤十字老人保健施設 (入所定員82人,通所定 員18人),中町赤十字訪問 看護ステーション,中町 赤十字指定居宅介護支援 事業所,多可町中在宅介 護支援センター(多可町 より受託)

病院の特徴

回復期リハビリテーション病棟, 人工透析,人間ドック,生活習慣病 予防健診,特定健康審査,特定保健 指導,婦人健診(乳がん,子宮がん 施設健診),救急告示病院

終わりに

岡山大学医学部の関連病院は中四 国に数多くありましたが、各県に1 つの医学部を設置されたことにより 岡山県外の病院からの撤退が昭和50 年頃から始まりました。また平成15 年度の卒後研修制度の改革後には都 市から離れた中小病院からの医師の 撤退が起こっております。当院でも 外科と婦人科教室からは今後派遣が 中止となり、岡山から遠く離れた当 院ではパート医師の派遣もお願いで きず、非常に厳しい現実に直面しました.

小生は当院に赴任する前にはさぬき市民病院(旧大川総合病院)に9年間在職し,病院の経営を立て直し,新病院建設の基礎作りができました。第2外科の先輩である砂田先生や田中先生が学長として在職された香川医科大学に平成18年度から経営をお願いした際には,学生時代に面識のあった香川医科大学の病院長などの方々には安心して今後の市民病院を託することができました。

しかし、当院の現在(平成22年3月)の医師のスタッフで岡山大学出身(医局)の医師は8名中5名ですが、2名は退職する予定で残り3名の医師は全て67歳以上の高齢者となり、当院と岡山大学の関連性は近い将来なくなりそうです。岡山大学と疎遠になる2病院で勤務した小生が岡山医学会雑誌に当院の記録をとどめることは時の流れではありますがいささか寂しい気持ちでございます。

平成22年4月受理

〒679-1114 兵庫県多可郡多可町中区岸上280 電話:0795-32-1223 FAX:0795-32-0652 E-mail:hospital@nakacho.jrc.or.jp

http://www.nakacho.jrc.or.jp